

ねらい

小中学校では、9年間の義務教育において、学校で学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、一人一人の児童生徒に「生きる力」「共に生きる力」を育むように努めています。

特に、確かな学力を定着させるため、「学び合い」を基盤とした問題解決的・体験的な活動を重視した授業、子どもたちの特性や習熟の程度等を考慮した個に応じた指導、子どもたちの自己学習力の向上をめざした評価等の工夫を図り、分かることの大切さやできることの喜びを実感できる授業をめざしています。

「確かな学力」とは、「基礎的・基本的な知識・技能」と「自ら学び自ら考える力（思考力・判断力・表現力等）」を兼ね備えた統合的な学力をいいます。

現状と課題

四日市市の子どもたちの学力・学習状況 全国学力・学習状況調査結果から

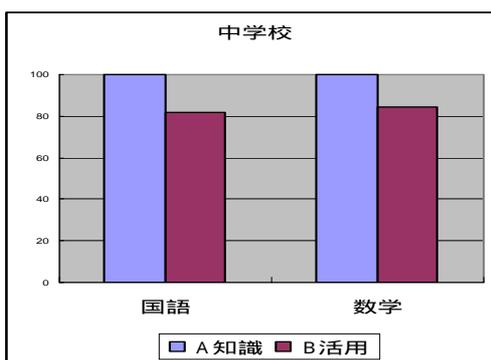
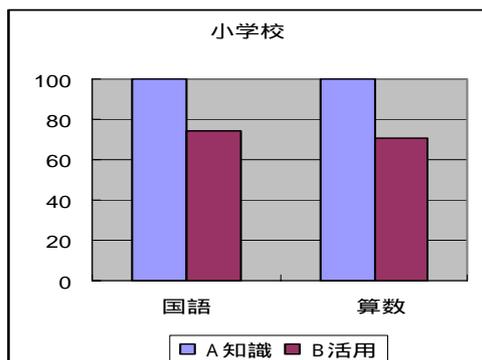
平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査は、次のような特徴があります。

調査	項目	内容
学 力	国語A, 算数・数学A (主として「知識」に関する問題)	<ul style="list-style-type: none"> 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
	国語B, 算数・数学B (主として「活用」に関する問題)	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力
学 習 状 況	児童・生徒質問紙	小学校6年生及び中学校3年生が回答する生活習慣や学習環境等に関する調査
	学校質問紙	校長が回答する指導内容や指導方法等に関する調査

1 児童生徒に共通する学力の概要

【全体】

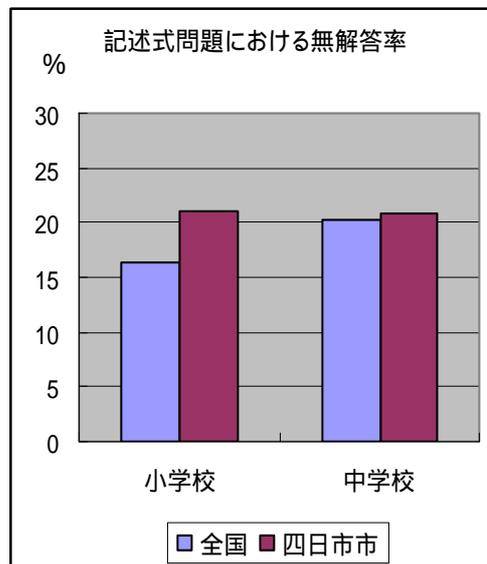
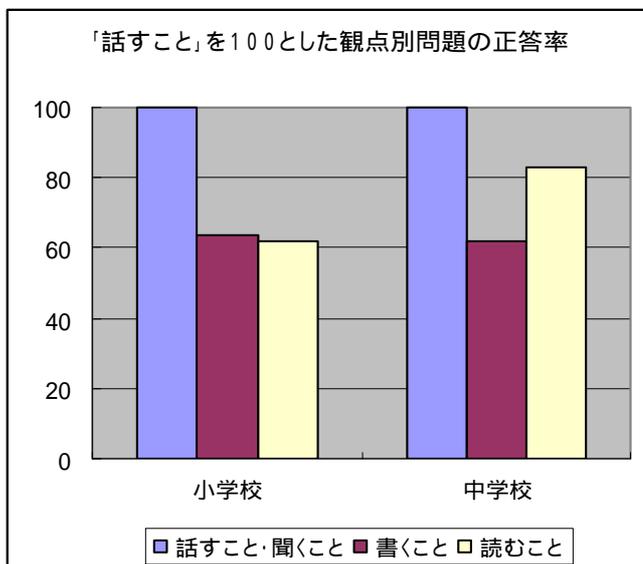
四日市市全体の平均正答率は、小中学校とも全国と同様、A（知識）に比べて（活用）の方が低く、Bで求められる知識・技能を活用する力に課題があるといえます。



左のグラフは、A知識の問題の正答率を100としたときに、B活用の問題の正答率がどれくらいを示したものです。

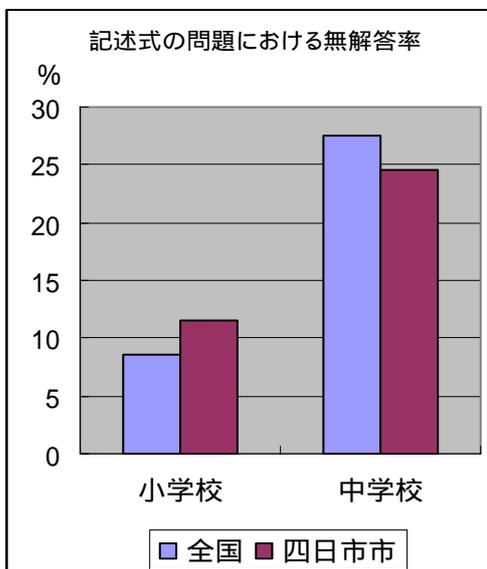
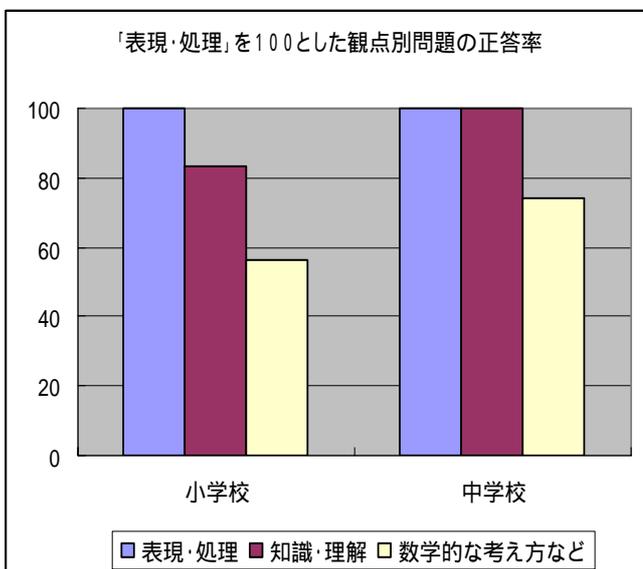
【国 語】

四日市市全体の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」「言語事項」においてはある程度高いものの、「記述式問題の多い」「書くこと」「読むこと」においては低い傾向にあります。また、記述式問題においては、小中学校とも全国に比べて無解答率が高いことから、「書くこと」「読むこと」に課題があるといえます。



【算数・数学】

四日市市全体の平均正答率は、「知識・理解」及び「表現・処理」に比べ、「数学的な考え方（見方）」において低い傾向があります。「数学的な考え方（見方）」については、記述式問題がほとんどであること、加えて無解答率が高いことから、国語でも明らかになった「書くこと」「読むこと」に係る課題と関連性があると考えられます。



【全国学力・学習状況調査結果から見えてきたこと】

四日市市の子どもたちは、「読むこと」や「書くこと」などに課題があることから、言語力の育成を充実させることが重要です。そのためには、国語科だけでなく、教科等の枠を越えた共通理解と以下のような取り組みが大切です。

- (1) テキストを理解・評価しながら読む力を高める取り組みの充実
- (2) テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取り組みの充実
- (3) 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

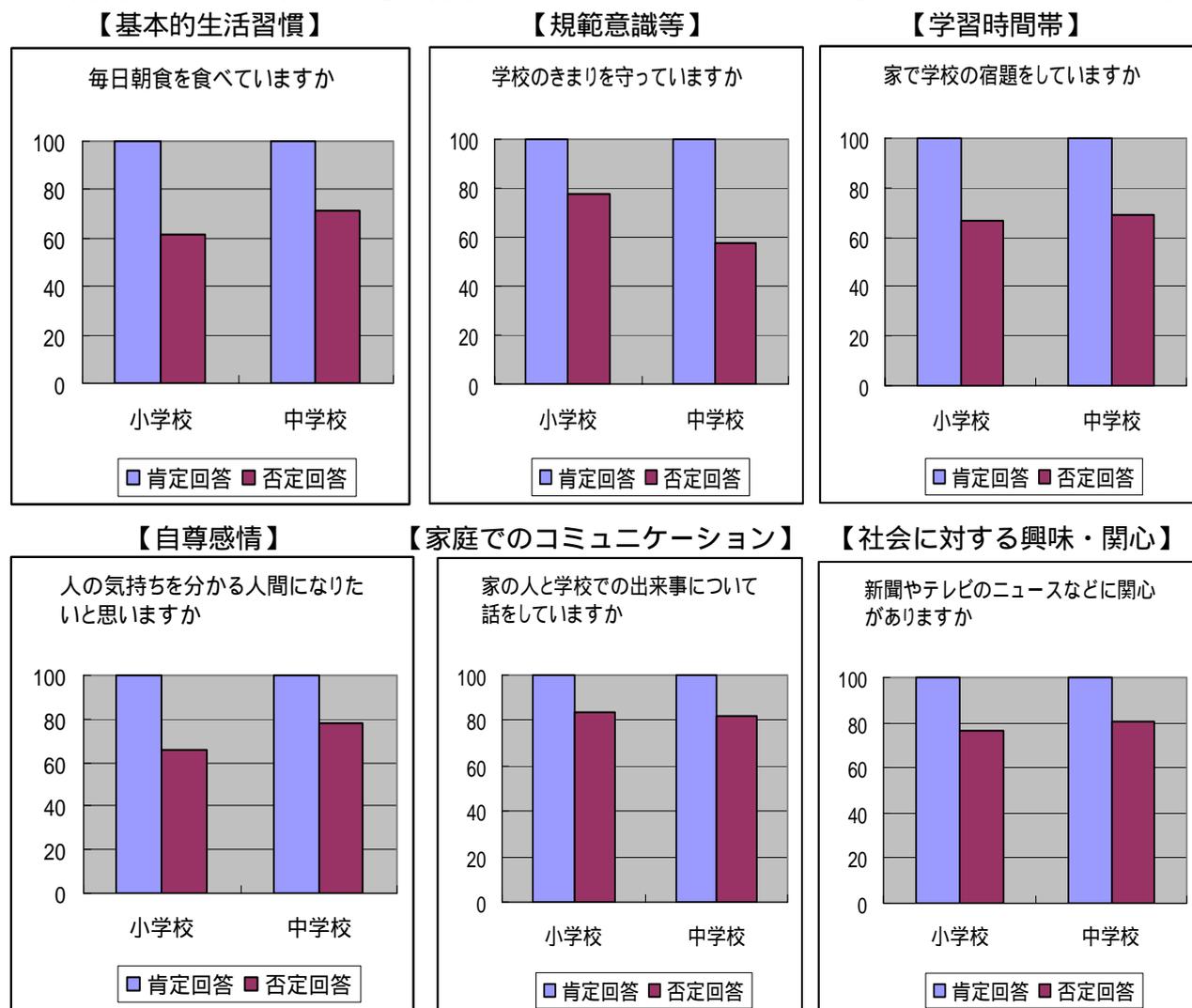
2 児童生徒の学習状況の概要

(1) 児童生徒質問紙の回答をみると、下のような四日市市の小中学生の特徴が見えてきます。

<p><全国平均に比べて高いもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書は好きだ」とする子どもの割合 ・「学習塾で勉強している」子どもの割合 ・「携帯電話で通話やメールをしている」及び「普段、インターネットやテレビゲームを長い時間している」とする子どもの割合。
<p><全国平均に比べて低いもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家で自分で計画を立てて勉強している」子どもの割合。 ・「家で食事をするときは、テレビを見ないようにしている」子どもの割合 ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、勉強している」及び「土曜や日曜日など、学校が休みの日に勉強している」とする子どもの割合

(2) 学習状況についてのいろいろな質問に対して、「はい」と回答（肯定回答）した児童生徒と、「いいえ」と回答（否定回答）した児童生徒では、正答率に大きな差がある場合もあります。

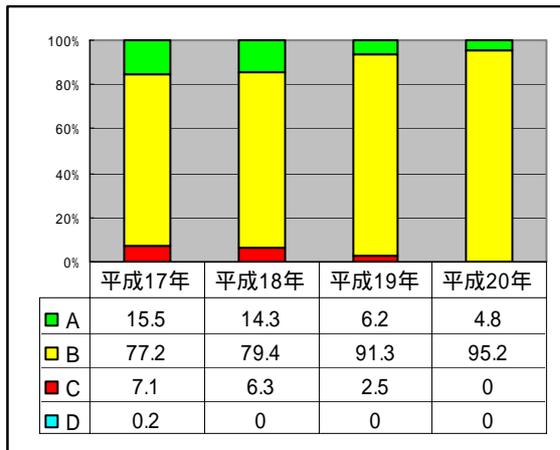
下のグラフは、肯定回答した児童生徒の平均正答率を「100」とし、それに対し、否定回答した児童生徒の平均正答率がどれくらいになるかを、比であらわしたものです。



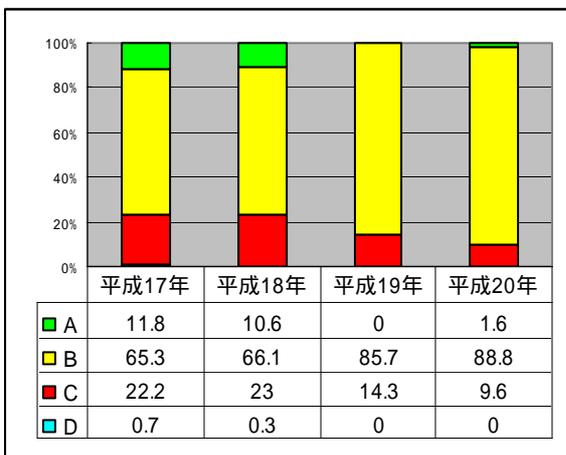
今後、全国学力・学習状況調査結果から、学力と学習状況の相関関係分析を進めることで、学習習慣の確立や家庭学習の定着などについて、家庭への働きかけなどを考えていく必要があります。

小中学校の授業改善の取組

Q：基礎・基本を定着させるための授業改善の工夫を図ったか。

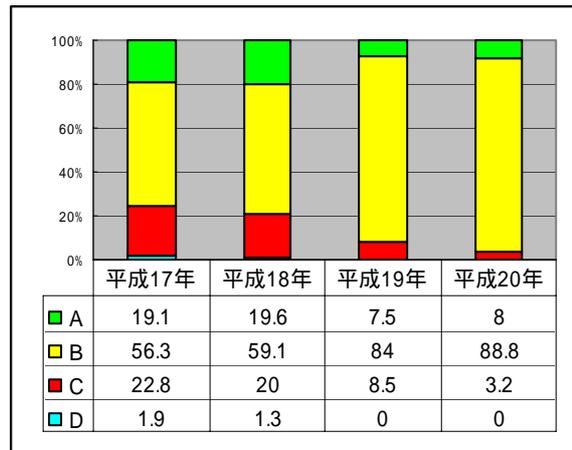


Q：問題解決的な学習や体験活動を重視した授業を行ったか。

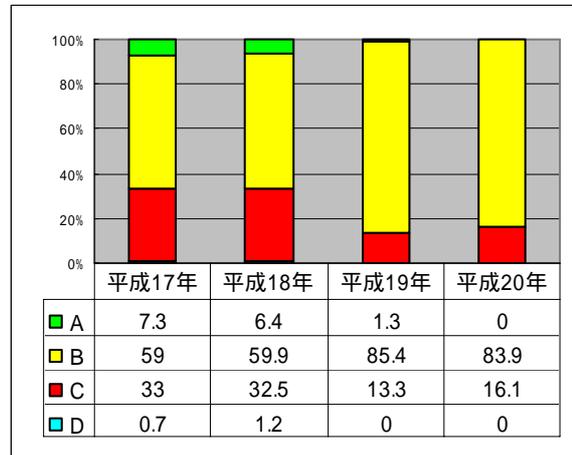


- 各学校の自己評価から -

Q：個に応じた指導，一斉学習の中の個別指導を図ったか。



Q：評価に関する研修を進め，指導と評価の一体を図ったか。

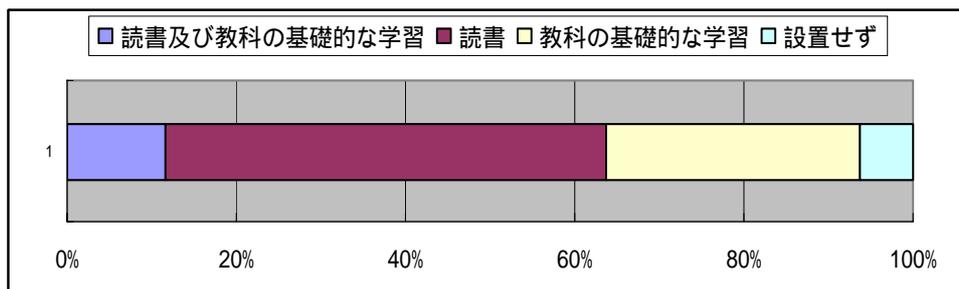


< 「A」十分，「B」おおむね十分，「C」やや不十分，「D」不十分 >

- 基礎・基本を定着させるための授業の改善や工夫については，日常の授業の中にグループ活動やペア学習などを積極的に取り入れるなどして，個に応じた指導の充実に努めており，90%以上の学校が十分またはおおむね十分としています。
- どの質問項目においても，80%以上の学校が指導方法の工夫改善に十分またはおおむね十分としていますが，その中で，「問題解決的な学習や体験活動を重視した授業を行うこと」「評価に関する研修を進め，指導と評価の一体化を図ること」については，他の項目に比べて「十分」とする学校の割合が低くなっています。

毎日の繰り返し学習の位置づけ

< 小中学校における始業前の学習時間の設置状況 >



- ・ 漢字や計算，読書など，10 分間程度の活動を継続的に取り組むことで効果が期待できる内容を中心に，「朝の学習」等の名称で，毎朝 1 限目が始まる前に位置付けて学習する学校が多くあります。これらの学習の時間は，学習指導要領の改訂によって，評価に生かしたりすることなどにより，教科の授業にも位置づけることが可能となりました。
- ・ また，特定の曜日の放課後等に，補充的な学習を取り入れて実施している学校もあります。

今後の改善方針

全国学力・学習状況調査結果から，子どもたちの学力向上には，言語力の育成のほか，学習習慣の確立，家庭学習の充実などが考えられることから，これらのことに学校教育全体で取り組むとともに，家庭との連携にも努め，確かな学力を育成していきます。

確かな学力の育成のためには，次のことを重点に授業改善を図っていきます。

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能と自ら学び考える力をバランスよく伸ばす教育を進めます。
- ・ 授業における言語活動や体験的な学習活動の充実を図り，言語力やコミュニケーション能力の育成に努めます。

授業改善のための具体的な手立てとして，次のことを「学びの一体化」の取組と連動して進めます。

- ・ 各教科・領域の特性を踏まえるとともに，子どもの発達段階，学級集団の状況等に応じた「学び合い」の授業のあり方についての研究を深めます。
- ・ 「学び合い」とは，共に聴き合い，互いに尊重し合う関係の中で，見方や考え方が異なる他者とかかわりながら，考えを深めたりする学習活動です。これにより子どもたちは，自分の考えをより質の高いものとしていきます。
- ・ また，「学び合い」は，子どもたちの人間関係の育成を図る活動でもあり，道徳など各領域にも積極的に活用していきます。

評価が子どもの「自己学習力の向上」や教師の指導の改善に生かされていくよう，指導と評価の一体化の定着を図っていきます。

- ・ 評価の方法，場面，時期などの一層の工夫とともに，学校全体での共有を進めます。

<平成20～22年度幼稚園／小・中学校教育指導方針に示された，確かな学力をめざす学習構造図>

